

- 2025 大学合格者数
- 今年度の進路指導部
- 赤本ルール

副校長 山崎篤史

私も都立高に通っていた。入学式後、担任の先生が「君たちは3年間、部活と行事を頑張りなさい。大学は4年目に受かるから！」と言い切ってくれるような学校だった。私たち生徒も面白がってその言葉に乗かった。私はサッカー部に所属し、将来はサッカーと関わり続けるべく教員になろうとだけ心に決め、わちゃわちゃとした3年間を過ごしていた。当時私が練習の時によく着ていたのは、友人からもらったソ連代表（まだロシアではない！）のユニフォームである。海外サッカーの情報はあまり入ってこない時代だったが、レアな感じが気に入っていた。胸には「CCCP」の文字。CCCPって何だろうね、CO-OP的な何かかね、なんて友人と話していたが、気になったらすぐに調べる、なんていう芸当は平成初期には無理なのである。私の探究心が控えめだっただけかもしれないが。

大学に入り、第二外国語は中国語を選択したはずが、ノリで書いた第2希望のロシア語に回され、結局は4年間もロシア語を勉強することになった。最初にロシア語のアルファベットを習い、「C」は英語のアルファベットで表記すると「S」、「P」は「R」と知った。つまり「CCCP」は「SSSR」。ソ連の正式名称の頭文字だった。おお！と声は出てないと思うが、感動した。ソ連代表なんだから極めて当たり前の話なのだが…。

高校の親友が北大に進んだこともあり、大学時代に何度も北海道を訪れているうちにうっかり北の大地に魅了され、教員採用試験では東京と北海道を受験した。試験も終わった11月頃、北海道教育委員会から電話があった。「君は英語以外に、ロシア語を教えられるのか？」と。道路標識やお店の諸々の表示が日露バイリンガル表記だった北端の町・稚内が頭をよぎった。「いえ、教えるのは無理です。」即答だった。もう北海道の道は途絶えた、と思ったが、無事北海道で採用され、旭川で私の教員人生がスタートした。（ちなみに4年間勉強したロシア語は、教えるどころかちんぷんかんぷん、笑）

人生には3つの坂がある。「上り坂」「下り坂」そして「まさか」の坂である、という定番スピーチ。結婚式ならば、長い人生、良い時も悪い時もある、そして、思いもよらない事態に遭遇することもある、どんな場面でも二人で手を取り合って…といった具合に話が進んでいく。基本的には何にでも当てはまる話で、実は上り坂のほうがキツイとか、3つの坂の解釈もいろいろだが、いずれにしても、私はこの3つの坂の話が好きである。半世紀生きてみた実感として、もちろん上り坂も下り坂もあるし、そして思いもよらないピンチという意味での「まさか」もあったけれど、それ以上に、あの時のあれがここで生きてくるんだ！こんなところで繋がるんだ！という意味での嬉しい「まさか」がたくさんあった。その時々でやっていることが、思った通りの結果・成果にならないことは多々ある。でも、いつか何かに必ずつながっている。その「まさか」がいつなのか、何なのかは生きてみないと分からない。だから、皆さんにはコスパとかタイパとか言って短期的な、オチが見えている程度の成果にとらわれすぎず、いつか、どこかでやってくる「まさか」を楽しみに目の前のやるべきことに一生懸命取り組んでほしい。オチは分からないから面白いのである。

○2025 大学合格者数 (現役・既卒) 4/4 現在

主な国公立大学等			主な私立大学 (延べ)		
	現役	既卒		現役	既卒
東京大	2	1	早稲田大	54	8
京都大	1	2	慶応大	27	4
東京科学大	6	1	上智大	28	8
一橋大	8	1	東京理科大	40	18
北海道大	6	1	学習院大	13	4
東北大	6	2	明治大	102	18
大阪大	4		青山学院大	30	4
神戸大	1		立教大	63	6
弘前大	1		中央大	45	6
秋田大	1		法政大	54	8
茨城大	3		成蹊大	16	1
筑波大	9		成城大	3	1
埼玉大	6	1	武蔵大	9	9
千葉大	14	1	國學院大	5	0
お茶の水女大	2		明治学院大	22	1
電気通信大	1		日本大	27	3
東京外語大	6		東洋大	33	1
東京海洋大	1		駒沢大	7	0
東京学芸大	8		専修大	5	0
東京農工大	3		同支社女子	2	0
横浜国立大	8	1	共立女子大	5	5
金沢大	3		実践女子大	2	2
富山大		1	昭和女子大	1	1
信州大	1		津田塾大	7	7
北見工大	1		東京女子大	12	1
宇都宮大	1		日本女子大	3	
国際教養大	1		北里大	2	
東京都立大	14		工学院大	7	4
埼玉県立大	1		芝浦工大	29	5
大阪公立大	1		東京電機大	4	1
九州歯大		1	東京都市大	5	
高知県立大	1		東京農大	3	2
福島県立医大		1	順天堂大	6	1
			その他	77	12
計	121	14	計	748	117
	135			865	

○今年度の進路指導部

進路指導室は3階にあります。進路に関わる相談など、用事がある時は訪ねてください。3年生に限らず、1年生・2年生もお気軽にどうぞ。

また、進路指導室の隣が「進路指導資料室(赤本部屋)」です。ここには、廊下に置ききれなかった赤本や各大学のパンフレットなどの資料が置いてあります。

進路指導室前の廊下には、オープンキャンパスや職業体験・大学体験などの案内を掲示しています。自分自身に必要な情報を積極的に入手しましょう。好奇心のアンテナを常に働かせてください。

進路部 専任	★細谷(主任・国語) 加倉井(副主任・数学) 飯島(公民) ★田川(数学) 横川(日本史) 吉村(英語) 仮屋園(世界史) 小室(物理) 寺島(数学)
	1 学年 ★皆川(化学) 小島(数学)
	2 学年 ★長谷川(公民) 井手(数学)
	3 学年 ★大谷(日本史) 渡邊(生物) 福島(国語)

★進路指導室常駐

○赤本ルール

進路指導室前の廊下と隣の資料室に赤本が置いてあります。赤本とは過去の入試問題を大学ごとに一冊の本にしたものです。

使い方

今の時期は、それぞれの大学の出題傾向や難易度をチェックするのに使います。時間を計ってやってみても、今はまだ合格点には届かないかもしれませんが、傾向を知り、対策を講じるために使って下さい。入試直前期には文字通り、自分の力試しに活用します。過去問分析は合格の鍵となります。

ルール

廊下に置いてある貸出簿に必要事項を記入すれば借りられます。1回に借りられるのは3冊まで、貸出期間は10月までは1週間、11月以降は2泊3日となります。最新版(2026年度)は閲覧のみです。赤本以外の資料も同じです。みんなが使うものです。

から、ルールを守って利用しましょう。

祝！入学 81 回生

4月7日(火)新宿高校第80回入学式が挙行され、新入生319名が入学しました。9、10日のオリエンテーションで新宿高生としての心構えを学び、10日(金)午後からは授業が始まりました。そこでアドバイスです。とにかく最初が肝心です。まずは、5月の中間考査を意識して準備をしましょう。

その1 勉強する習慣をつけよう！

予習→授業→復習のサイクルが大切！

高校の授業で驚くことは各科目の専門性とその進み具合でしょう。特に授業の進度は中学校とは比較になりません。新宿高の授業についていくためには、毎日の予習、復習は欠かせません。高校での授業進度に慣れるまでは大変かもしれませんが、手を抜くことなく、全力で取り組みましょう。

その2 定期考査に最善を尽くそう！

定期考査は出題範囲が決まっています。まずは、授業内容、課題を完璧にこなしたいことです。学習の基本は「繰り返し」。どんな問題も、焦ることなく、まずは、ゆっくり、丁寧に、気持ちよく解けるまで繰り返しましょう。そのうち早く対応できるようになります。満点を目指して、最高の準備で定期考査に取り組みましょう！

その3 先生に質問しよう！

授業でわからないところは、積極的に担当の先生に質問しましょう。教員室の座席は教科ごとに並んでいます。担当の先生が不在でも、その近くの席の先生に尋ねてみましょう。授業以外のわからないことは担任の先生に相談しましょう。自分から動き、声を出すことが肝要です。

先輩からの言葉

「正解のない問い」に向き合う皆さんへ：

「福島復興の最前線から学んだ、働くことの本質」

一般社団法人「ならはみらい」顧問 兼

ナラハ・サステック（株）代表取締役

24回生 石崎 芳行（新宿高校1972年卒）

母校の後輩の皆さんへ、一人の卒業生としてメッセージを送る機会をいただき感謝している。私は現在、東電福島第一原発事故被災地の一つ福島県楡葉町を拠点に、まちづくり支援、大学での講義、復興支援新会社の設立・経営、さらにはサッカーJ2「いわきFC」の支援など、多方面にわたり福島復興に携わっている。

思えば、約50年前の春、大学を卒業して社会へ踏み出した時、波乱万丈・激動の人生が待っていると想像だにしていなかった。私が東京電力に入社した動機は、青臭くシンプルなものだった。文系の学生として「地味でも社会の根幹を支える仕事に就きたい」、「誰もが必要とする電気に関わる会社で社会貢献したい」と考えたもの。

しかし、入社後の歩みは、決して平坦な道ではなかった。キャリアの中では、料金改定作業、公害訴訟和解、動燃改革を担当、また広報部長や事務系原子力発電所長として、会社組織の不祥事への対応、そして極めつけは、2011年3月の東日本大震災・福島第一原発事故という未曾有の危機の対応に直面した。

特に、震災後、「福島復興本社代表」という重責を担った日々は、私の仕事観を根底から揺さぶるもの

だった。日々目の前にあるのは、教科書には載っていない「正解のない問い」ばかり。事故により日常を奪われ避難を強いられた方々の痛みや苦しみの前に、組織の論理は通用しないことを痛感。そこで学んだ「社会人とは何か」という問いへの答えは、「逃げずに誠実に向き合い続けること」、そして「誰かのために汗をかく覚悟を持って行動すること」であった。仕事の真のやり甲斐は、単なる成功や報酬にあるのではない。困難な状況にあっても地域の方々と共に歩み、一歩ずつ復興の兆しを紡ぎ出していく過程で得られる「信頼」こそが、何物にも代えがたい「やり甲斐」、「財産」だと実感している。

定年後も私が福島に留まり活動を続けているのは、一言でいえば、その「信頼」に応えたいという一貫した想いがあるからだ。これから進路を考える皆さんに、今、伝えておきたいことは二つ。

一つ目は、「大学進学をゴールにしないこと」。大学は知識を得る場所である以上に、自分が一生をかけて追求したい「軸」を見つけるための土俵だと思う。何を学ぶか以上に、自分はどう生き、どう社会に貢献したいのかを問う時間を大切にしてほしい。

二つ目は、「多様な人・価値観に触れ、視野を広げること」。私は今、元電力マンの枠を超えて教育、スポーツ、観光、まちづくり、さらには地域の方々の相談役（お節介おじさん）として様々な分野・人に関わっているが、異なる分野との「掛け算」こそが、複雑な社会課題を解く鍵になると思う。自分の専門に閉じこもらず、旺盛な好奇心を持って行動してほしい。

未来は予測不可能だ。しかし、目の前のことに全力を尽くし、誠実な歩みを積み重ねれば、道は必ず拓ける。皆さんが自分自身の人生の主演として、堂々と社会へ羽ばたいていくことを、一人の先輩・お節介おじさんとして心から応援している。

（同窓会のご協力を得て「先輩からの言葉」を掲載しています。）

